

## カルト宗教からの脱出～旧統一教会（山口大学原理研究会）元信者からのメッセージ

話題提供者 花田憲彦さん（立川キリスト教会牧師）

外山 英昭

12月4日、YU学び舎（代表 君波和雄）で、統一教会問題が取りあげられました。山口大学の3年間、統一協会に入信し青春をささげた花田さんの体験談を中心とした講座でした。

会場は、山口市内の防長青年館（パルトピア）で、参加者は会場40名、ズーム12名の52名でした。

花田さんは、はじめに自らは統一協会を追っているジャーナリストではないことわり、30年前の山口大学在学中の「原理研究会」での3年間の体験、自らの入信、脱会の体験を通して、統一協会の巧妙な勧誘の手口やマインド・コントロールの方法、自らの脱出のきっかけを通して救出のためのヒントなどを語りながら、カルトや宗教との向き合い方、本物と偽物の見分け方などを話したいと述べた。

花田 旧統一教会は、統一協会であり、統一協会自身がそう宣言しています。何よりキリスト教ではありません。文鮮明教というのが正しい。

2012年の文鮮明の死の後、80年代の靈感商法、92年の合同結婚式がマスコミに大いに取り上げられました。その学生組織が原理研究会です。

### 入信までの経緯

花田 入学する時、親から原理研には気を付けろと言われました。大学2年の冬、アパートに見知らぬ先輩が訪ねてきて、学生の意識調査だとしてアンケートに答えてくれないかと頼まれました。そのうちに人生について考えるサークルを誘われますが、当時ソフトテニス部入っており、断っていました。しつこく誘われるので、一度だけ行って断ろうと山大通りのビデオショップの2階のたまり場に行きました。そこで話をすると一言ごとに称賛されました。

ラブシャワー（マインド・コントロールのテクニックの一つ）は、承認欲求が満たされることが希薄な現代では、迷える子羊には有効。家族のように寄り添ってくれ、コーヒーやお菓子もある喫茶店のような癒しの場が、新しい居場所になっていき、徐々にカルト宗教へのめり込んでいきました。警戒心少しずつ解きほぐれていきましたが、それでも気になり「原理研ではないですか？」と聞いても、「えっ原理、それ何。ここは原理ではないよ。」と言われ、原理ではないと思ってしまいました。

人生を考えるうえでも聖書を読もうと言われ、再び警戒しましたが、宗教のサークルではないと言われ、大丈夫と納得しました。

人生とは何かを考え、人生を賭ける何かを求めている時、生き生きと輝いている彼らに出会い、彼らが勧める二日間のセミナーに参加しました。

旧約聖書の「はじめに、神は天地を創造された」からはじまります。進化論の否定です。自分の価値観にヒビが入れられた瞬間です。人生の意味や目的を見失っていた自分には衝撃的な言葉でした。人間をつくった神に帰依することで自分本来の価値を知り、活かされている意味と人生の目的を知ることができると思いました。

半年後、7日間のセミナーに参加。神の存在を信じ、神と出会える喜びを感じながら参加しました。そして、「ついに道を見つけた！」と思ったのです。

救世主イエスの生涯が語られ、そのイエスが使命途中で死に、イエスに代わって人類を救うため使命を与えられた人物が現れる、それが文鮮明。その顔を見て救い主とは思えなかったのですが、神の願う天国をこの地球上に創るという訴えには心が動かされました。

自分は、イエス・キリストのように生きたいと思いました。それが、イエスとは正反対の方向に進む恐ろしいものだと、その場では知る由もなかったのです。

マインド・コントロールがすっかり完成してしまったころ、「ここは原理なんだ」と打ち明けられました。カルトでは嘘が正当化されます。7月11日の統一協会の田中会長の記者会見、嘘のオンパレードでした。より大きな目的を達成するためにはいかなる手段も許されるのです。

嘘の被害者であった自分が、嘘を使って信者を獲得していきました。徹夜で何日もかけて説得します。

### 3年間の活動内容

花田 入信すること、それはそれまでの生活を捨てることでした。酒を断つ。好きなCD、本、思い出の写真などを捨てさせられました。アパートを引き払い、郵便通帳も差し出しました。湯田の古い温泉旅館借り切った統一協会の寮に入りました。現代の出家のようなものでした。そのときは男泣きをしました。この道が真理であるのなら、どんな迫害を受けてでも進もうと決意しました。

朝5時祈祷会。夜11時から12時までの伝道活動。遅い時は2時就寝。毎日3~4時間の睡眠で、授業中に仮眠。勉学はおろそかになりました。

徹夜祈祷、断食祈祷は未知の領域に世界を広げるチャレンジ。自らの品性を高める修行。7日断食までいきました。7日断食は、統一協会では合同結婚式に出る資格でした。冬、冷水を浴びることを90日続けました。すると罪が清められたすがすがしさを感じたのです。

夏休みは、6~7人で、担当地域で物を売り歩きます。サタンに奪われたお金を取り戻し、自らを高める活動と言われましたが、実際はボランティアを装った偽りの集金活動でした。脱臭シート、ハンカチと歯ブラシセット、黒檀の箸など500円で仕入れたものを2000円で売ります。一人一日10万円のノルマでしたから7万5000円の利益。これを、全国の原理研の学生がやってましから、ひと夏で数億円は稼ぎます。それは、韓国の本部に送られました。

しかし、末端の信者たちは貧しい生活を送ってました。寮には20数人居り、一人当たり朝50円、夜100円の食費で当番が食事を準備しました。

自分は「山口大学キャンパス新聞」を作る仕事を与えられました。大学の教授を取り込み、学生に統一原理の思想を広げる目的で作られ、東京・渋谷の世界日報社でレイアウトと印刷を行いました。夏休みは卒業生名簿で電話し、広告依頼や年間購読を依頼、300万円ほど集めました。

先輩信者たちは勝共連合の選挙活動に駆り出され、全員留年を余儀なくされました。当時名前が挙がっていたのは、自民党の小沢一郎、安部晋太郎、高村正彦という国会議員でした。

公安警察からも連絡があり、学内の左翼過激派についての情報=チラシなどを集めて、大学近くの喫茶店で、伝えていました。

### 人はなぜカルト（統一協会）に惹かれるのか

花田 統一協会の信者数が一番多いのは日本です。

統一協会に入りやすい人は、

①基本的にまじめな人

②聖書には何となく興味があるが、きちんと学んだことのない人

私が統一協会に入った動機も、個人の救いを求めるというよりも、環境問題に関心があり、この世界を救う理念を追求したいという思いでした。何か救いの手立てはないかを探っていました。そこに生きる意味を探していましたが、そんな学生は山ほどいます。そこにカルトが食い入って来ます。

人にはみな「承認欲求」と「愛情欲求」があります。現代社会ではそれが満たされません。迷える羊が渴きを癒すかのようにカルトの共同体の中に癒しを見出します。宗教に関心をもっても、日本では成熟した宗教教育は行われて来ませんでした。宗教に免疫のない日本人は偽物を見分けることがむづかしい。もっと本物（聖書）に触れて、客観的に真理を学ぶ必要があると思います。

### カルトに入った人はどうしたら脱出できるか

花田 入ってしまった人を救出するには多くのサポートが必要です。私の場合両親がエクレンシア会に

相談しました。実家（宗像市）で和田牧師に会った時は、「サタンが来た」と思いました。統一協会には反牧（反対牧師）マニュアルがありますが、ビデオで見たその顔でした。

両親は私に名を告げるのを忘れたようですが、和田牧師は自らを明らかにして対面されました。そして、統一協会の教理の確認作業をしました。統一協会の経典である『原理講論』の内容が真理なのかどうかを三日三晩議論しました。矛盾を突かれても言い訳を続け、議論は平行線のままでした。だんだん旗色が悪くなり一度はその場を逃げて、大学に戻りました。1年後改めて対決、聖書の教えと統一協会の経典である『原理講論』の内容に矛盾はないかを検討しました。その中で、自分の言い訳がガラガラと崩れていきました。

エクレシア会は、救出に際して信仰の動機を尊重してくれました。統一協会に入る人々の多くが純粋です。その信仰を頭ごなしに否定したり、馬鹿にしない。基本スタンスは、「信仰を辞めさせる」のではなく「正しい信仰を持つように導く」、カウンセリングのようなかわりでした。その人たちのことを理解する。入信に家庭の問題が関わっているかもしれません。

安倍元総理を銃撃した山上容疑者も彼の思いを受け止めてくれる人がいたら、エクレシア会に出会っていたら、彼の人生も、家族の人生も変わっていたかもしれません。

『その「宗教」は本物か』（22年9月 福音社 花田憲彦 和賀眞也 1,760円）。  
鈴木エイトさん推薦、ぜひ一読を。カルトを見分けるチェックリストも載せています。

